

優秀賞 「祖父の畑の野菜」

智辯学園中学校 2年 野川 結加

「おはようさん、きゅうり出来たぞ。」

朝早く、祖父の声が玄関から聞こえてきます。近くに住む祖父は、退職後、野菜栽培を趣味としています。そして、朝採り野菜は、すぐに我が家に届けられ、毎日の食事やお弁当を鮮やかに彩っています。収穫したばかりの野菜は甘くてみずみずしく、とてもおいしいです。それは、畑で太陽の光と祖父の愛情をいっぱい吸収したからだと思っています。

毎日、学校から家に帰って、野菜がたっぷり並んだ食卓を囲み、家族で夕食を食べながら、その日の出来事をおしゃべりする時間はとても楽しいです。そして、自然と私たちのおはしも進みます。嫌なことがあった日も、勉強や部活動で疲れている日も、野菜たっぷりの食事と家族の笑顔で、私は元気を取り戻し、次の日のやる気につながっています。祖父に、「おじいちゃんの野菜、おいしく食べているよ。ありがとう。」などと、あらたまってお礼を言ったことはありませんが、いつも感謝しています。

しかし、去年の冬から、祖父は膝を傷めていて、思うように動けないようです。医者の診断は「変形性膝関節症」で加齢が原因です。投薬やリハビリで気長に治療するしかなく、すぐには回復しないと聞いて、祖父は元気がありません。そして、このことと関係があるのかなのか分かりませんが、今年の夏は、畑のトウモロコシの出来がよくありませんでした。皮をむいてゆでたトウモロコシは、いつもより一まわり小さく、甘みも水分も足りないような気がしました。私は、トウモロコシを食べながら、その原因を考えました。今年の夏のひどい暑さも原因の一つに挙げられますが、祖父の膝の不具合によるところも大きいと考えました。畑の野菜には祖父の愛情をかけた手間が必要なのです。

そこで、私たちは祖父の畑の野菜栽培について話し合いました。元気だった祖父がしていたように、季節の野菜を何種類もたくさん栽培することはできません。畑の面積を小さくし、栽培する野菜の種類を減らし、畑の作業はできるだけ私たちが手伝うことにしました。でも、今まですべてを祖父に任せていたので、野菜栽培に関する私たちの知識はほとんどなく、早速困っています。祖父の教えのもと、野菜栽培の一年生としてスタートしたいです。そして同時に、今まで何気なく食べていた野菜の一つ一つにも感謝の心を持たねばならないと思っています。また、一生懸命に私たちのために野菜を作ってくれている祖父に対しても。

今日の食卓にも色鮮やかに野菜が並んでいます。私は心の中で「おじいちゃんありがとう。いただきます。」と言いました。面と向かっては照れくさくて、まだ祖父にはお礼を言うことはできていません。